

真実を知ってください

フェンタニル

ドロップ・デッド

マーダー8

チャイナ・ホワイト

ポイズン

致死注射

アパッチ

jp.drugfreeworld.org

この小冊子が制作された理由

薬物についてのさまざまな情報が氾濫しています。学校や街中、インターネットやテレビで。その中には正しい情報もありますが、そうでないものもあります。

薬物に関して耳にするほとんどのことが、実は売人からのものなのです。かつての売人たちが曰く、「買わせるためならどんなでたらめでも言う」。

薬物についての実態と真実を知ればまともな決断を下すことができます。この小冊子は、そのために制作されたものです。あなたのために。

あなたのご意見、ご感想は貴重です。ですからこの小冊子について感じたことをお知らせください。 jp.DrugFreeWorld.org にアクセス、または info@drugfreeworld.org までEメールでご連絡ください。

フェンタニルとは？

フェンタニルは、鎮痛剤として何十年も使用されてきた非常に強力な薬物です。依存を引き起こす高い可能性があるため、主に進行癌や大掛かりな手術後の激しい痛みを軽減するために使われています。

フェンタニルは、モルヒネやオキシコドンなどの鎮痛剤や、違法薬物のヘロインと同類の薬物です。**オピオイド**と呼ばれるこれらの薬物は、主にアヘンポピーの産物です。ヘロインやモルヒネのように、アヘンから直接つ作られるものもあります。他のもの、例えばオキシコドンは半合成で、自然の物質から製造所

で作られていることを意味します。フェンタニルは、100パーセント製造所で作られ、完全な合成です。フェンタニルを作るのに植物製品は必要ありません。つまり、実験用化学薬品が手に入るならどこでもフェンタニルを作れるということです。これが薬物密売組織がストリート・ドラッグとして流通させるために、違法製造所でそれを簡単に製造できるようにしました。2013年、米国内でフェンタニルの流通が急上昇し始め、それ以降、過剰摂取による死者数は増加しています。

フェンタニルはどのように使用されているか？

医

薬品としてのフェンタニルは貼付剤として皮膚に適用されたり、ごく少量の錠剤、あるいは、ゆっくりと溶けるロリポップ型の舐めるタイプとして投与されることがあります。舌の下や鼻に使われるスプレーもあります。液体のフェンタニルは注射によって投与されることがあります。

フェンタニルのこれらの形態のいずれも誤用される可能性があります。貼付剤は小さく切って舌の下に置かれたり、中の成分を絞り出して飲まれたりします。

違法なフェンタニルは、しばしば偽の処方薬の錠剤に混入され、そのどれもが致命的な可能性を持ちます。粉末状のフェンタニルは、注射用、またはガラスパイプで吸引するために溶解することもできます。非医薬品のフェンタニルは、目薬、鼻スプレー、また

は使用者が口に入れる小さなプロッター紙に加えられることがあります。

フェンタニルは、メタンフェタミン*やコカインと組み合わせることができるため、使用者がフェンタニルを服用していることに気付かずに、鼻から吸引したり、喫煙したり、注射したりし得ます。

増加する違法なベイブ製品とマリファナには、フェンタニルが混入されており、それが致命的になる可能性があります。

なぜフェンタニルはそんなに危険なのか？

2つの要因がフェンタニルを危険で致命的なものにしています。その1つは、その驚異的な効力です。

* メタンフェタミン：神経系を混乱させる危険な薬物で、しばしば覚せい剤として知られている。

通称

- アパッチ
- チャイナ・ガール
- チャイナ・タウン
- チャイナ・ホワイト
- ダンス・フィーバー
- ドロップ・デッド
- フェティ
- フレンド
- グッドフェローズ
- グレート・ベア
- ヘ・マン
- ジャックポット
- キング・アイボリー
- 致死注射
- マーダー8
- ポイズン
- タンゴとキャッシュ
- TNT

それはヘロインの50倍、モルヒネの100倍も強力です。純粋なフェンタニルがわずか2ミリグラム、ほんの数粒程度でも致命的な量になり得ます。

もう1つの要因は、人々は自分がフェンタニルを服用していることにさえ気付いていないかもしれない、ということです。それはしばしば、ヘロイン、コカイン、あるいはメタンフェタミンなどの違法薬物と混合されます。知らずに使用している人が、予期せずフェンタニルを過剰摂取することがあります。

粉末のフェンタニルは、本物の処方薬のように見える偽の錠剤にしばしば加工されます。2023年、米国の法執行機関は、闇市場からフェンタニルを含む8,000万以上の偽造錠剤を押収しました。



フェンタニルの致死量

(実際のサイズ200%で表示されている画像)

偽の錠剤：1錠で殺せる

犯 罪薬物ネットワークは、偽造錠剤を大量生産し、フェンタニルを混ぜ合わせ、ブランド名付き処方薬として販売します。

友人からもらった、あるいはインターネットやソーシャルメディアで購入した偽の錠剤には、フェンタニルが含まれている場合があります、致命的になることもあります。

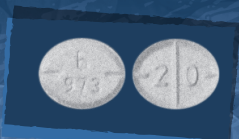
これらの錠剤は、オキシコドン（オキシコンチンとパークセット）、ヒドロコドン（バイコディン）、向精神薬や興奮剤（ザナックスとアデロール）などの処方薬に見えるように作られています。

DEA* によって分析されたフェンタニルを混ぜた偽の錠剤のうち、10個中7個に致死量のフェンタニルが含まれていました。

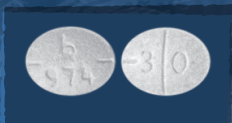


違法錠剤の製造に使われた型

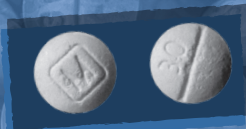
*DEA: 合衆国麻薬取締局



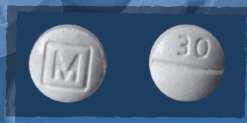
本物の処方薬
アデロール錠剤



偽造
アデロール錠剤



本物の処方薬
オキシコドン錠剤



偽造
オキシコドン錠剤



本物の処方薬
ザナックス錠剤



偽造
ザナックス錠剤

彼 女の部屋に行き、ドアを開け、彼女を見つけました。彼女は立ってはいましたが、前かがみになり、頭をソファの肘掛に傾け、嘔吐物がありました。**彼女を抱え起こしたとき、彼女の目は開いていて、彼女は死んでいるとわかりました。**

—母親

フェンタニルはどのように人を殺すのか？

フェンタニルを過剰に摂取すると、ふらふらになり、眠くなり、すぐに意識を失ってしまう可能性があります。この薬物は、呼吸をコントロールする脳の部分に作用し、そのため、この人の呼吸は遅くなり、困難になります。彼らはいびきをかき、喉を鳴らすような音を立て、やがて完全に呼吸が止まることがあります。

フェンタニルは胸の筋肉を硬直させることもあり、呼吸も停止します。この身体的な反応は、薬物を摂取した直後に起こり得ます。

「私は母のリビングルームで、
母の足元、妹の前で、文字通り
心停止しました。もう二度とそんな
状況にはなりたくありません。」

—カイル

フェンタニルの過剰摂取の症状

少量のフェンタニルでも致命的になることがあるため、過剰摂取の兆候を認識することは命を救うことができます。

以下は、フェンタニルが関与した過剰摂取のいくつかの症状です。

- 深い鎮静状態
- ゆっくりとした浅い呼吸
- 呼吸停止
- 青い爪と唇
- あえぐ、喉を鳴らす、いびきをかく
- 無反応、または無意識
- 冷たく、汗ばんだ肌

フェンタニルの短期的な影響

フェンタニルを意図的または偶発的に摂取する人にとっての危険は、致命的な過剰摂取に至る可能性が非常に高いことです。たとえ一度使用しただけでも、です。

- 死
- 深い鎮静状態
- 混乱
- 身体的機能の低下
- 眠気
- 吐き気
- 嘔吐
- 小さな瞳孔
- 重度の便秘
- 頭痛
- 呼吸抑制

「2年前の今日、私は息子を埋葬しました。

彼は29歳で、闇市のフェンタニル入りザナックス錠剤を取りました。

彼は眠り、決して目覚めませんでした。」—父親

フェンタニルの長期的な影響

フェンタニルの最も明白な長期的な影響は、依存です。薬物が非常に強力であるため、依存症はすぐに起こり得ます。これは、薬物の売人が、フェンタニルをメタンフェタミンやコカインに加える理由の1つです。つまり、顧客をすぐに薬に依存させるためです。

使用者をハイにするためには少量のフェンタニルしか必要としないため、密売人も他の薬物に混合します。フェンタニルを加えると、他の薬物はより強力で、より安価になりますが、より致命的なものにもなります。

- 依存性
- 呼吸器系の永久的な損傷
- はっきりしない思考
- 肝臓と腎臓の損傷
- うつ、不安、気分の変化
- 免疫系の抑制
- 死

フェンタニルの簡略史

フェンタニルは、1959年に医薬品として開発され、1968年に医療用に承認されました。最初は病院で、激しい痛みのための注射や手術用麻酔薬として使われました。フェンタニルには依存性のリスクがあるため、主に末期癌患者などの終末期医療での激しい痛みにものみ処方されます。

1990年代には、フェンタニルの貼付剤が承認され、1998年には、フェンタニルは舐めるタイプの薬として流通し始めました。それらの流通後、わずかな量が医療機関から不正に流出し、路上で違法に販売

され、その結果、毎年数件の過剰摂取による死亡者が出ました。

過剰摂取による死

2006年、フェンタニル関連の過剰摂取による死亡の劇的な増加が、米国で記録され始めました。それらはメキシコのトルカにある違法製造所から発見されました。この製造所が閉鎖されたとき、死亡者数は低いレベルに戻りました。

その後2013年に、アジアの製造所が大量のフェンタニルを製造し、再び死亡者数が増え始めました。既存の薬物密売組織は、これらの製造所からフェンタニルを輸入し始め、ヘロイン、メタンフェタミン、コカイン、そして偽の処方薬にしばしばフェンタニル



を加えていました。薬物売買のパターンが拡大するにつれて、過剰摂取による死亡が再び着実に増加しました。

疾病対策予防センターは、フェンタニル関連の年間死者数を7万人以上と推定しています。1年以上の間に、オピオイド系の死亡例の84パーセントが、フェンタニル系薬物によるものと推定されています。

フェンタニル よりも強力

フェンタニルに関連する薬物は何十種類もあり、中にはより強力なものもあります。例えば、カルフェンタニルは、フェンタニルの100倍も強力であり、象の治療に使用されます。しかし、薬物売人は、人用の薬物にそれを追加し、何千もの死を引き起こしています。

フェンタニル

カルフェンタニル:100Xの強さ

フェンタニルによる死： 破滅的な流行

7 エンタニルの影響は、アメリカ合衆国で最も悲劇的で、1年間に薬物の過剰摂取による死亡の3人に2人がフェンタニルによるものでした。

2021年4月、12ヵ月間の過剰摂取による死亡者の総数が初めて10万人に達し、フェンタニルが主な原因となりました。

カナダでは、2022年上半期、オピオイド関連過剰摂取による死亡の76パーセント

が、フェンタニルまたはフェンタニルに似た物質によるものでした。わずか数年で、オピオイド系の死亡者の総数はほぼ2倍になりました。

欧州では、ドイツ、スウェーデン、英国、フィンランドを含む13ヵ国で、フェンタニルに関連した死亡が報告されました。



ザカリヤ
永遠の17歳



イザイア
永遠の15歳



エヴァ
永遠の24歳



アマンド
永遠の28歳

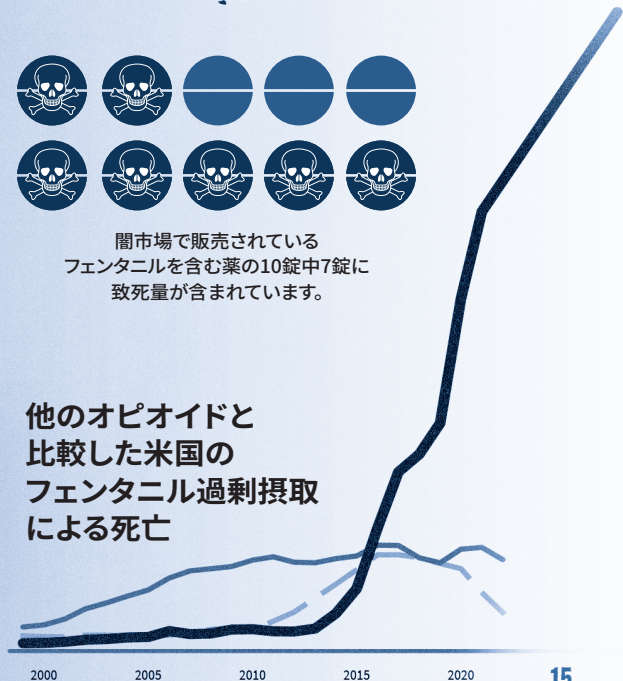


ジェームズ
永遠の34歳



闇市場で販売されている
フェンタニルを含む薬の10錠中7錠に
致死量が含まれています。

他のオピオイドと 比較した米国の フェンタニル過剰摂取 による死亡



フェンタニルに命を奪われた人たち

プリンス: 音楽のアイコンは、誤ってフェンタニルを過剰摂取し命を落としました。

マック・ミラー: ラッパーでプロデューサーの彼が26歳で死去したのは、コカインとアルコール、そしてフェンタニルの組み合わせによるものでした。

トム・ペティ: シンガー・ソングライターは、フェンタニル、オキシドロン、ザナックス、そしてその他の物質の致命的な混合物を過剰摂取しました。

レクシー・アリジャイ: 21歳のラッパー / シンガー / ソングライターが、フェンタニルとアルコールの過剰摂取で亡くなりました。

タイラー・サンダース: 若手俳優は、18歳でフェンタニルを過剰摂取する前に、違法薬物の乱用歴がありました。

アンガス・クラウド: ユーフォリアの「フェズコ」として有名なこの俳優は、25歳でフェンタニルを含む違法薬物のカクテルで亡くなりました。

ジョーダン・キャッシュマイヤー: リアリティテレビ番組のパーソナリティは26歳のときに、フェンタニルとコカインの過剰摂取で亡くなりました。

ジミー・ヘイズ: 31歳のナショナル・ホッケー・リーグのスターの死は、フェンタニルとコカインの毒性によって引き起こされました。

ジェイロン・ファーガソン: 彼のNFLでの経歴は、フェンタニルとコカインを過剰摂取した26歳で断ち切られました。



タイラー・スカッグス: 野球選手

クーリオ: ヒップ・ホップの伝説

ショック・G: 米国ラッパー

ルーク・ベル: カントリー・ミュージック・シンガー

ローガン・ウィリアムズ: 俳優

ダニエル・ミケルソン: 俳優

マイケル・K・ウィリアムズ: 俳優

フランク・ヴァレロンガ Jr.: 俳優

プリンス

マック・ミラー

トム・ペティ



薬物の売人がよく使う誘い文句

十 代の若者へのアンケートによると、薬物に手を出すようになったそもそもの理由として、55パーセントが「周りの雰囲気になされた」と回答しています。彼らには「ダサい」と思われたくない、「カッコよく見られたい」、という願望があります。薬物の売人はそのことをよく承知しています。

売人たちは、友だちのような顔をして近付き、「リラックスしていい気分になれるもの」「君を助けてあげる」と持ち掛けてきます。

薬物の売人はお金だけが目当てです。薬物を買ってもらうためなら、どんな嘘でも言います。

彼らは、自分たちは良質の生産物を持っていると言うでしょう。その中に何が含まれているのか、それがどれほど強力か見当もつかないとしても。彼らは、彼らの錠剤やヘロインにはフェンタニルは一切含まれていないとあなたに保証さえするかもしれませんが、実際のところ、それらには致死量が含まれているかもしれません。

フェンタニルとメタンフェタミンを売っていて逮捕された薬物の売人は、「彼らがハイの状態を生き延びられたら、俺の収入は保証される」と言います。

薬物についての真実を知ってください。そうすれば自分自身で正しく判断できるはずですよ。

「肉眼で識別できるほどの小さな粒でも、
それだけで一回分の量になるんだ。

それを持ち歩いて人に渡していたら、一気に名が売れた。」

—シム(逮捕される前にフェンタニルを販売した者)



違法フェンタニル錠の製造所

真実を知ってください：薬物

薬物は基本的に毒です。その作用は、摂取する量によって決まります。

少し摂取すると、活動をより活発にする中枢神経刺激剤として作用します。多めに摂取すると、活動を抑制する鎮静剤として作用します。さらに多量に摂取すると毒となり命を奪います。

これはどの薬物にも当てはまります。こうした作用を引き起こすのに必要な量が違うだけです。

それだけではなく、多くの薬物には人の心にも影響を及ぼす弊害があります。薬物を取っている人が自分の周囲で起こっていることを知覚しても、それは歪んだものになってしまう可能性があります。その結果、その人の行動は奇妙だったり、不合理であったり

するかもしれません。暴力的になることもあるでしょう。

薬物は、全ての感覚を遮断します。望ましい感覚も望ましくない感覚もです。そのため、短期的には痛みを和らげるために役に立ちますが、同時に人の能力や機敏さを消し去り、思考を不明瞭にします。

医薬品は、身体の働きを良くしようとして、何かを速めたり、遅くしたり、身体の働きを変えることを意図した薬物です。時には必要ですが、薬物であることに変わりはありません。中枢神経刺激剤や鎮静剤といった薬物を取り過ぎれば命を落とすこともあります。したがって、医薬品は規定通りに使用されない場合、違法薬物と同様に危険なものになり得ます。

本当の解決策は、
事実を認識し、最初から
薬物など使用しないことです。



なぜ人は薬物を取るのでしょうか？

人が薬物を取る理由は、自分の人生を変えたいと思うからです。

若い世代の人たちが薬物を取る理由には、以下のものがあります。

- 周りとうまくやっていきたい。
- 問題から逃避、またはリラックスするため。
- 退屈を紛らわすため。
- 大人になったような気がするから。
- 反抗するため。
- どんなものか試してみたい。

こういった若者は、薬物が問題を解決してくれると思っているのです。しかし、結局のところ薬物は問題にしかありません。

自分の問題に直面することが困難なこともあるでしょう。しかし、薬物によって解決しようとしている問題よりも、薬物を使用した方が常に悪い結果を招きます。本当の解決策は、事実を認識し、最初から薬物など使用しないことです。



この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズは、これまでに20以上の言語で出版され、世界中で何百万部も配布されてきました。

新しい薬物が次々と世の中に出回っており、その影響に関する新たな情報が知られるようになっていきます。本シリーズはそうした新しい情報を盛り込んだ最新版です。

これらの小冊子シリーズは、カリフォルニア州ロサンゼルスを拠点とする非営利の公益法人「薬物のない世界のための財団」によって出版されています。

財団は、その国際防止ネットワークを通して各種教育資料や助言を提供したり、調整を行ったりしています。また、青少年や保護者、教育者やボランティア団体、政府機関ばかりではなく、薬物乱用のない人生を送ることに関心のある人なら誰とでも協力しています。



参考文献:

この小冊子をまとめるのに使われた参考文献: jp.DrugFreeWorld.org/refs

写真のクレジット: ページ 5-7: DEA、14-15: Angels Across America、犠牲者の家族の許可を得て使用された写真;

ページ17: Wikimedia、Takahiro Kyono (Tom Petty)、Wikimedia、The Come Up Show (Mac Miller)、Wikimedia、Penner (Prince);

ページ19: DEA

知っておくべき真実



この小冊子を含む薬物防止教育小冊子のシリーズには、マリファナ、アルコール乱用、フェンタニル、危険ドラッグ、エクスタシー、コカイン、クラック・コカイン、覚せい剤、有機溶剤 / 吸入ガス、ヘロイン、LSD、処方薬乱用についての正確な情報がまとめられており、読者が自分の意志で薬物のない人生を送ることができるように役立つ内容になっています。

無料オンライン・コースを行う、または地域の
薬物のない世界支部とつながるには、
jp.DrugFreeWorld.org にアクセスしてください

薬物のない世界のための財団

jp.DrugFreeWorld.org • info@drugfreeworld.org

1 (888) 668-6378 • 1 (818) 952-5260



この小冊子をダウンロードするには
ここをスキャン